中国語研究

水滸伝の称呼(二)―対称語― 高島俊男 (1)

結果補語と否定の射程 内田慶市 (21)

「日本人のための実践的中国語教科書について」 渡部昭夫 (32)

葉聖陶作品の語法と語彙 上野恵司 (43)

〈資料〉

最近の中国刊語学関係書目(五) (59)

第20号

龍溪書舍

1981年12月

結果補語と否定の射程

内　田　慶　市

0.　はじめに

結果補語を伴う動詞の否定には，一般に"没有"或いは"没"が用いられることは，よく知られているところである。

ところで，その場合の「否定の射程」すなわち，「否定の及ぶ範囲」について，間接的にではあるが，『中国語教科書』に次のような記述がみられる。

"没有拿住"就是雖然拿了，但是没有能把鉛筆留在手中，"没有拿住"とは手には取ってみたが，鉛筆が手のなかからすべりおちたことである。(注1)

つまり，"没有拿住"といった場合の否定の射程は，結果補語の部分だけであり，前の動詞にまでは及んでいないということである。

このことについて，最近，相原茂氏も，次のように述べられている。

Verb-Result Compound においてこれを否定するには"不"ではなく"没"が使われるのは，Verb の部分は已然と見なされているわけで，V はここでも前提と考えられる。従って，Neg VR Compound の連鎖でも，Verb は否定を拒む傾向が見られる。例えば"我没有走累"では"走"したことは否定されていない。（中略）しかし，"打破，買着 zháo,抓住"などは動詞そのものも否定され得るだろう。VR Compound について"没—"のコンテキストで否定を拒む Verb とそうでないものを審査してみるのも面白い試みではないか。(注2)

私はかつて修士論文で，否定の問題を扱い，その中で特に「連動式の否定の射程」について述べたことがあるが，今回，上の相原氏の提起をうけて，結果補語を伴う動詞の否定の射程について，少し考えてみたいと思う。

1. " ～完 "

①那本書我還没有看完。

（あの本を私はまだ読みおえていません。）

②作業我還没有作完。

（宿題をまだやりおえていません。）

③我還没有喫完飯。

（私はまだ食事を食べおわっていません。）

④我還没有買完。

（私はまだ買いおわっていません。）

上の①～④は，いずれも，否定の射程は，結果補語 " ～完" だけであり，前の動詞にまでは及んでいない。

それは，次の①′～④′は成立するが，①″～④″は成立しないということから明らかになる。

①′那本書我看了一半，但是還没有看完。

（あの本を私は半分読んだがまだ読みおえていません。）

②′作業我作了一点児，但是還没有作完。

（宿題を少ししたが，まだやりおえてはいません。）

③′我還没有喫完，正在喫呢。

（私はまだ食べおわっていません。今食べているところです。）

④′我買了一点児，但是還没有買完。

（私は少し買ったが，まだ買いおわっていません。）

①″* 那本書我還没有看完，從今天開始看。

（あの本を私はまだ読みおえていません。今日から読みはじめます。）

②″* 作業我還没有作完，一点児也没有作。

（宿題をまだやりおえていません。すこしもやっていないんです。）

③″* 我還没有喫完飯，正要去喫呢。

（私はまだ食べおえていません。ちょうど食べに行くところです。）

④″* 我還没有買完，一点児也還没有買。

（私はまだ買いおえていません。少しも買っていないんです。）

①″～④″は，いずれも，動詞そのものが否定されてくるような文脈であるが，

成立しないのである。

但し，次のような場合は成立する。

⑤ A，作業個作完了嗎？

(宿題やりおえた？)

B，還没有，一点児也没有作。

(まだです。少しもやっていません。)

⑤のBと，②′を比較するとおもしろい。両者の違いは，前の部分の"没有"の後ろに，"作完"があるかないかの違いである。つまり，⑤のBの"還没有"というのは単純に，"還没有作完"の省略と考えられないような面があるわけである。これは，「聞き手」と「話し手」の認識の違いに由来してくるものであろうが，「省略」ということについて考えてみるのもおもしろいことのようである。

2. "～着 zháo"

"～着"を伴う動詞を否定した場合は，二通りの場合があるようである。

(a) 結果補語の部分だけに否定の射程が及ぶ場合

⑥丢的東西我没有找着。

(なくした物をみつけ出せなかった。)

⑦那個謎語我没有猜着。

(あのなぞなぞを言いあてられなかった。)

これらは，次のように言えるところから，動詞そのものは否定されていないことがわかる。

⑥′丢的東西我找是找了，但是没有找着。

(なくしたものをさがしたことはさがしたが，みつけられなかった。)

⑦′那個謎語我猜是猜了，但是没有猜着。

(あのなぞなぞを考えたことは考えたが，言いあてられなかった。)

次の例も同様である。

⑧我劃了火柴，但是没有劃着。

(マッチをすったが，火がつかなかった。)

⑨我打了，但是没有打着。

（うったが，あたらなかった。）

(b) 前の動詞にまで否定の射程が及ぶ場合

次のような場合には，前の動詞にまで否定が及んでくる。

⑩那本小説我没有買着。

（あの小説を買えなかった。）

⑪那個菜我没有喫着。

（あの料理を私は食べられなかった。）

⑫我要借那本字典，但是没有借着。

（私はあの字典を借りたかったが，借りられなかった。）

これらは，例えば，⑩を次のように言うことができない。

⑩′＊那本小説我買了，但是没有買着。

（あの小説を私は買ったが買えなかった。）

さて，a群とb群の違いは，一体どこからくるのであろうか。

同じ“～着”という結果補語を伴っていながら，否定の射程に違いが生ずるというのは，どういうわけであろう。

“～着”という結果補語の表わす意味は，次の通りである。

動作がすでに予期した目的を達し，または成果をおさめたことを意味する。

すなわち，“獲得”とか“達成”とかの意味をもつものである。（注3）

a群の場合，例えば⑥の“找”（さがす）を例にとれば，“找”という行為の実現と，“找着”（さがし出す）という結果との関係は，必ずしもイコールの関係ではない。“找”というのは単に，その行為しか表わしておらず，その行為が実現しても，“～着”（獲得する）という結果に達するとは限らないわけである。

一方，b群の場合，例えば，⑩の“買”（買う）を例にとれば，“買”という行為の実現と，“買着”（買って手に入れる）との間には，ニュアンスの違いこそあれ，その結果だけに着目すればいずれも，ある品物を「獲得」しているわけである。つまり，“買”という行為の実現と，“買着”という結果の表現との間には，結果的にイコールの関係があるということができるのである。従って，“没有買着”といった場合，重点は，「買いたい品物がなくて，その結果（つまり，獲得）にいたらなかった」という点にあっても，その行為の実

現が即結果につながるという関係があるところから，必然的に，"買" という行為の非実現，つまり，"買" という動詞の否定をも同時に示すことになり，究極的には，"没有買" と同じことになってしまうわけである。

このように，結果補語の表わす意味と，前の動詞の性格との関係を考慮に入れて，次のように，否定の射程を説明すれば，§１の "～完" の場合も含めてうまく説明がつくようである。

（仮説１）

結果補語を伴う動詞を否定したとき，前の動詞の行為の実現と，結果補語の表わす意味との間に，イコールの関係がない場合，否定の射程は，結果補語の部分だけに及ぶ。（ａ群）

（仮説２）

前の動詞の行為が実現することが即結果補語の表わす意味と，結果的にイコールの関係になる場合は，否定の射程は前の動詞にまで及ぶ。（ｂ群）

ところで，ｂ群に入れると思われるものでも，次の "睡" のようなものはおもしろい。

⑬我睡了，但是没有睡着。

（私はねたが，ねつけなかった。）

⑬が可能であるから，ａ群に入るようにみれるわけであるが，これは "睡"（ねる）という動詞のもつ意味のあいまい性によるものであろう。日本語でも「ねる」という動詞は，㋑「横になって休む」という場合と，㋺「眠りに入る（大脳が休みの状態になる）」という場合があるが，中国語も同様であり，一般的には "睡" といえば，㋺の意味であろうが，⑬が可能であるのは，"我睡了" の "睡" が，㋑の意味で使われているからである。しかし，基本的には，"没有睡着" といえば，動詞にまで否定が及んでおり，ｂ群に属するとみた方がいいように思われる。

以下，更に，他の結果補語と否定の射程について検討し，先の，仮説１・２が，妥当か否かをみていくことにする。

3. "～見"

"～見" という結果補語を伴う動詞を否定した場合，次のように，結果補語の

部分にしか否定の射程は及ばない。

⑭我聴了，但是什麽声音也没有聴見。

（私は耳をかたむけて聞いたが，どんな音も，聞こえてこなかった。）

⑮我看了半天，什麽也没看見。

（私はずい分みていたが，何もみえなかった。）

"～見という結果補語は，感覚動詞のあとについて，その動作の結果，対象が感覚に入ってくることを表わすが，前の動詞は，単に動作・行為をのべるだけで，その実現と，結果との間には，イコール関係はない。従って，仮説1が適用されることになる。

4. "～住"

"～住"の場合には，"～着"の場合と同じように，二通りある。

(a) 結果補語の部分だけに否定の射程が及ぶ場合。

⑯那枝鉛筆我没有拿住，掉在了地下。

（あの鉛筆を私はしっかりともっていなかったので下におとしてしまった。）

⑰那個賊，我没有捉住。

（あの賊を，私はしっかりとつかまえておくことができなかった。）

⑱我没有接住他打過来的球。

（私は彼のうった球をしっかりとうけとめることができなかった。）

これらは，次のように言えるところから，否定は前の動詞に及んでいない。

⑯′？那枝鉛筆我雖然拿了，但是没有拿住，掉在了地下。

（あの鉛筆を私は手にもったが，しっかりともたなかったので，下におとしてしまった。）

⑰′？那個賊我雖然捉了，促是没有捉住，被他逃跑了。

（あの賊を，私はつかまえたが，しっかりとつかまえておかなかったので，逃げられてしまった。）

⑱′？他打過来的球，我接是接了，但是没有接住。

（彼のうった球を，私はうけることはうけたが，しっかりとうけとめることができなかった。）

但し，⑰′⑱′は，インフォーマントの意見は分かれており，問題を残している。

（私の感じでは，むしろ，b群に入りそうに思われる。）

(b) 前の動詞にまで否定の射程が及ぶ場合

⑲那課課文我没有記住。

（あの課の本文を私はおぼえられなかった。）

⑳我叫了他一声，但是他没有站住。

（私は彼に一声かけたが，彼はたちどまらなかった。）

㉑他看到了過馬路的人，也没有把車停住。

（彼は通りを渡る人をみかけたが，車をとめなかった。）

これらは，たとえば，⑲を次のように言えないところから，否定は，動詞にまで及んでいるということができる。

⑲′ *那課課文我記是記了，但是没有記住。

（あの課の本文を私はおぼえたことはおぼえたが，おぼえられなかった。）

⑳の場合でも，インフォーマントによれば

⑳′ 他没有站住，就是説他還在走着。

（彼が立ちどまらなかったというのはつまり，彼は依然として歩いているということである。）

ということであり，明らかに否定は，動詞にまで及んでいる。

さて，このa群とb群における，結果補語と動詞の関係をみていくと，全く"～着"の場合と同じような結果になっている。

"～住"の表わす意味は，

ある動作によって目的物にはたらきかけ，それを一定の位置にとどめておくこと。(注4) 通過動作使某事物処於一種牢固穏定的状態。(注5) ということである。

a群の場合は，前の動詞の行為が実現したとしても，それが即，「一定の位置にとどまる」とは限らない。

それに対し，b群の場合は，例えば⑳の"站"（立つ）を例にとれば，"站"という行為が実現されれば，それは即「一定の位置にとどまる」ことになり，行為の実現と，結果補語のもつ意味とが，結果的にイコールの関係にあるわけである。

従って，a群には，仮説1がb群には仮説2が適用されてくることになるの

である。

5.　"～到"

"～到"の場合も二通りある。

(a)　結果補語の部分だけに否定の射程が及ぶ場合

㉒昨天我們没有談到那個問題。

（きのう私たちはあの問題までは話をしなかった。）

㉓汽車没有開到目的地。

（車は，目的地まで行かなかった。）

㉔丟的東西我没有找到。

（なくした物を私はさがし出すことができなかった。）

これらは，いずれも，次のように言えるところから，否定は結果補語の部分だけにあることがわかる。

㉒′　昨天我們只談了這個問題，没有談到那個問題。

（きのう私たちは，この問題を話しあっただけで，あの問題までは話をしなかった。）

㉓′　汽車開了一会児，就出了毛病，没有開到目的地。

（車は少し走ったら故障をおこして目的地まで行かなかった。）

㉔′　丟的東西我找了半天，但是没有找到。

（なくした物を私はずい分さがしたが，みつけ出せなかった。）

(b)　前の動詞にまで否定の射程が及ぶ場合

㉕那封信我還没有收到。

（あの手紙を私はまだうけとっていない。）

㉖那本書我没有買到。

（あの本を私は買えなかった。）

㉖は"買着"と同じような形であり，㉕も次のようには言えず，いずれも動詞にまで否定が及んでいる。

㉕′ *那封信我收了，但是還没有収到。

（*あの手紙を私はうけとったが，まだうけとっていない。）

このa群とb群の違いも，やはり，結果補語と動詞の意味の関係の違いに由

来している。

"～到" という結果補語の表わす意味は，次のようである。

人或事物通過動作到達某地点，某動作持続到某時間，某動作達到了目的。(注6)

a群の場合，たとえば㉓の"開"（運転する）という行為が実現したとしても，それがそのまま結果補語のもつ意味とイコールの関係にはならない。従って，仮説1が適用される。

b群の場合，たとえば，㉕の"収"（うけとる）という行為の実現は，そのまま，結果補語のもつ意味と，イコールの関係になり，従って，仮説2が適用されることになるわけである。

ところで，次のように，否定の射程が，補語の部分だけとか動詞の部分にまでというよりは，むしろ，目的語に及んでいるとみた方がいいような場合がある。

㉗他們従三点開始参観那個工廠，没参観到六点，只参観到五点。

（彼らは，三時からあの工場を見学をはじめて，六時ではなく，五時までしか見学しなかった。）

つまり，"六点"に否定が特に及んでいると考えられる。実は㉒にしても，"那個問題" に重点がありそうな気がするが，この点に関しては，別の機会に述べてみたいと思っている。

6. まとめ

以上，"～完" "～着" "～見" "～住" "～到"という五つの結果補語と，否定の射程についてみてきたわけであるが，§2でのべた仮説1・2は，ほぼ妥当なものであると考えられる。もちろん，今後，更に，他の結果補語についても検討していく必要があるが，一応次のようにまとめておきたいと思う。

（まとめ）

結果補語を伴う動詞文を否定する場合，相原氏の述べられる通り，補語に重点があり，動詞は前提となっており，否定の射程は原則として，結果補語の部分にしか及ばない。しかし，前の動詞の行為が実現されることが，結果的に，補語の表わす意味とイコールの関係にある場合には，否定の射程は，前

の動詞にまで及んでくる。

（1980. 2. 15 ）

＜注＞

（注１）　『中国語教科書上巻』（北京語言学院編．光生館．昭35）p. 252

（注２）　相原茂「否定を拒む二・三の要因」（『中国語研究 19』 龍渓書舎．1979）p. 31～32

（注３）　（注１）と同書　p. 247

（注４）　同　上　p. 252

（注５）　『漢語課本第二冊』（商務印書館．1977）p. 254

（注６）　同　上　p. 129

※ 本稿は，先に「福井漢文学会第28回大会」（1979. 12. 9 ）で口頭発表したものを若干手直ししたものである。なお，インフォーマントとして，福井大学外国人教師の卞民岩先生と，福井在住の富蓉（天津出身）さんを煩わせた。記して感謝したい。

＜補＞

“～在” の場合は，少々違った状況がみられる。

㉘　他没有坐在椅子上。

（彼は椅子に坐わらなかった。）

㉙　我没有把那本書放在那里。

（私はあの本をあそこにおかなかった。）

㉚　老師説的活，他一点児，也没有写在本子上。

㉚は，前の動詞まで否定が及んでいるといえようが，㉘㉙はやっかいである。例えば，㉘は次のようにいうことが可能である。

㉘′　他没有坐在椅子上，在站着呢。

（彼は椅子にすわらず立っていた。）

㉘″　他没有坐在椅子上，坐在床上呢。

（彼は椅子に坐わらず，ベッドに坐っていた。）

㉘′の場合は，㉚と同じようにみれるが，㉘″の場合は，“坐在” よりも “椅子上” と “床上” という場所が問題となっている。㉙も，同じようなケースが考えられる。

次の例などは，全く「場所」の問題である。

㉛ 我以前没有住在福井，住在大阪。

（私は以前は，福井でなく大阪に住んでいた。）

また，"～在"というのは，他の結果補語と異なり，前の動詞と"～在"の間に，"不" "得"を入れて可能補語が作れないということもある。このようなところから，"～在"は，別に考えてみる必要があると思われる。